

## 学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	幼稚部・小学部・中学部
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	・授業における情報保障の環境拡大及び学校アンケートによる満足度の向上 ・ICT活用がある授業数の拡大及びICT活用能力の向上
計画名	見て、感じて、実現へ～聴覚障がい児への情報保障及び日本語力・学力・生活力の定着～

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2 学力の保障と向上 1) ICTを整備・活用し、視覚を大切に「見てわかる授業」づくりを推進する。 ア全教室に据え置き型の電子黒板を整備する。 イ校内無線LANの教室への配備率を100%にするとともに、全教室にPCを整備する。(現状50%) ウ全教科のデジタル教科書を配備し、ICT活用の授業効果を最大限に高める。
事業目標	『見て、感じて、実現』をするために、以下の対応を行う。 ①主使用教室に取り付け型電子黒板、書画カメラの設置(全学年教室に1台以上設置) ②小学部、中学部の授業において、言語力を高めるために国語科のデジタル教科書を全学年配備。 ③小学部、中学部の音楽の授業において、「見て、感じて」が実現できるようにデジタル教科書を配備。 その結果、「学校教育自己診断や授業アンケート等において、幼児児童生徒、保護者の「授業における満足度」の肯定率を平均80%以上、教職員の「ICT機器活用」の肯定率を90%以上、漢字検定の合格者数の向上。ICT活用能力、授業研究、教材開発において、教職員の聴覚障がい教育の専門性の向上。」を付加し、その実現をめざす。
整備した 設備・物品	電子黒板機能付短焦点プロジェクター(壁取り付け式) 10台 電子黒板機能付短焦点プロジェクター電子黒板(移動式) 3台 書画カメラ10台 デジタル教科書(国語・音楽) 国語9学年、音楽9学年
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：ICT教育部(幼稚部 小学部、中学部) 取組みの実施者：小学部・中学部(国語科、音楽科、理科、技術科)
本年度の 取組内容	7月、アンケート実施(対象、教員、児童生徒、回収率100%、約200名。)整備したICT機器について、 教員の活用状況及びそれらを用いた授業に対しての児童生徒の受けとめを調査・分析。 8月、近畿聾教育研究大会(約200名参加)にて分析内容を発表。 10月、大学教授による本校教員対象の研修会を開き、整備したICT機器の活用の拡大について研修した(約100名参加)。 1月、ICT模擬授業を実施。整備したICT機器を積極的に使用している教員が授業実践例(4例)を発表し職員で共有した。 小学部・中学部ともに年に2回、児童生徒の漢字検定を実施。本校教職員向け「ICTたより」を年1回発行し、 授業実践の共有を行った。
成果の検証方法 と評価指標	学校自己診断、授業アンケートより ①児童生徒記入、全保護者記入の「授業における満足度」の肯定率を平均70%に引きあげる。 ②教職員「ICT機器活用」の肯定率を80%以上に引き上げる。 漢字検定⇒(小：6級、中：5級)合格率70%以上 音楽⇒小：全国ろう学校合奏コンクール入賞、わたぼうし音楽祭入賞をめざす。
自己評価	①学校教育自己診断において、児童生徒は小学部86%、中学部78%が授業はわかりやすく楽しいと肯定的回答。 小学部においては達成(◎) 中学部においても達成(○) 保護者は、89%が「学校は子どもの課題にあった授業をしている」と肯定的回答。達成(◎) ②学校教育自己診断において、教職員(回収率100%)は91%が、コンピューター等の情報機器が授業などで活用 されていると肯定的回答。達成(◎) 漢字検定について、本年度の合格者は、小学部では、5～8級を24名が受検し20名が合格。 6級以上の合格率は、82%で(○) 中学部では、3～8級を25名が受検し14名が合格。 5級以上の合格率は、50%で未達成(△) 全国ろう学校合奏コンクールは、入賞をのがす。未達成(△) わたぼうし音楽祭は2名入賞。達成(◎) 教育情報化実態調査において、さらに教員のICT活用能力の向上が見られた。
次年度に向けて	今年度、漢字検定については受験者が49名と昨年度の若干名から大幅な増加となった。受けやすい環境を整えた結果と思われる。また、授業についての肯定度は小中学部ともに上昇した。次年度については、公開研究授業や全国大会での発表、研究冊子作成や、検定のさらに受験しやすい環境づくりなどを行う。それらを通じて、教員のICT活用力の向上をはかり、見てわかる授業を推進し、各指標を上昇させ(◎をふやす)児童生徒の自立を支援していく。